

社会福祉学教育における情報教育のガイドライン

【到達目標 1】

人と社会及び社会福祉の現状について理解し、それらの問題を発見・解決するために必要な情報を収集、整理、分析、活用できる。

【到達度】

社会福祉の問題に関する情報の所在、構成、背景を理解し利用できる。
適切な情報を収集するために情報の信頼性を識別し、倫理に配慮して利用できる。
情報検索やソフトウェアの活用等、基本的な情報処理ができる。
多様なICTを用いて、収集した情報の識別、データベース化、プレゼンテーション等ができる。

【教育内容・教育方法】

は、社会福祉に関する、データベースへのアクセス方法を教える。
は、情報源の選別の方法を教えるとともに、剽窃や著作権、個人情報に関する情報倫理について事例等を用いて教え、体験させる。
と は、表計算や統計ソフト等を用いて多面的視点から情報の分析、考察、発表等をさせる。

【到達度確認の測定手段】

～ は、レポート、プレゼンテーション、テスト、論文等により確認する。

【到達目標 2】

ソーシャルワークの展開過程にICTを活用できる。

【到達度】

ICTを用いたアセスメント方法を理解している。
支援計画の作成、提案にICTを活用できる。
地域に向けて効果的に情報の受発信ができる。

【教育内容・教育方法】

は、演習・実習で事例やアセスメントソフト等を用いてアセスメントの方法を教え体験させる。
は、ICTを用いた支援計画の作成方法、データの保存・管理の方法を教える。
は、社会資源の提案や発信にホームページの作成や更新等のWeb等によるコミュニケーションの方法を教える。

【到達度確認の測定手段】

から は、レポート、プレゼンテーション、事例報告会等により確認する。